

作文の部(小学校)

大切な「備え」

土砂災害は、大雨が降り、泥や砂にしみこんで崩れ落ちるときに起こることが多いようです。テレビや新聞などで、土砂がくずれ落ち、家をこわしたり道路をふさいだりしているのを見たことがあります。じっさい、ぼくも、土砂がくずれ落ちたところを通りかかったことがあります。

今年の七月半ばのことです。その日は大雨洪水警報が出ていました。町に出かけるために、家の近くの農道を母の車で走っていたとき、急に母が車を停めたのです。前を見ると、二本の木が大量の土砂と共に道をふさいでいました。家を出てから、小さな土砂崩れも数カ所起きていましたし、田んぼにも土砂が流れ込んだり水があふれそうになっていました。

もしスピードを出して走っていたら、この土砂に乗り上げていたかもしれない考えるとゾッとしました。結局、ぼくたちは前に進むことができなくなって、来た道を引き返したのですが、引き返すとちゅうも、土砂崩れがおきて車といっしょに巻き込まれるのではないかと家に着くまでハラハラのしどおしでした。

家に帰ってから、母と

「もしまきこまれていたら、どうなっていたのだろう。」

「まきこまれていたら、けがだけじゃすまないところだったよ。おそろしかったね。」

と話し合いました。

ふとんに入って雨の音を聞きながら

「くずれたところは、今どうなっているのだろう。もっとくずれているのではないだろうか。」

と思うと、夜もおちおち寝ていられませんでした。

次の日、くずれていた場所を通ってみると、だれかが重機で片付けてくれたのでしょう、通れるようになっていました。とてもありがたいことだと思いました。

土砂災害が心配されるとき、何よりも大切なことは、早めに状況を知っておくことです。避難する必要があるのかないのか、もし避難する必要があるのならどこに、どうやって避難するのかを判断しなければならぬからです。そのためには、日頃からどこが危険でどこが安全な場所なのかを知っておかなければなりません。それと同時に、非常用の食料や薬、懐中電灯などをふだんから用意しておくことも大切です。

ふだんは土砂災害なんて来ないと思って、いろいろな用意はしていませんでしたが、先日、土砂くずれを目の当たりにしたことで、もし何かあったらこうしようという「備え」をしておくことが、自分の身を守るために必要なことだと思いました。

これは、土砂災害に限ったことではありません。日本は自然災害の多い国だと社会の時間に勉強しました。去年三月十一日に起こった東日本大震災の大津波の被害でも、やはり、備えをしていた人や訓練をしていた人たちのほうがたくさん助かったそうです。

津波による被害や土砂くずれなどの自然災害を完全になくすことはできないでしょう。相手が「自然」だからです。でも、被害を最小限に食い止めるために、早く津波の予想をしたり、土砂崩れが起こりそうな場所を見つけてあらかじめ工事をしたりすることで、安心・安全な生活を送ることができると思います。

今のぼくにできることはそんなに多くはありませんが、通学路で危ないところはどこなのかを知っておいたり、土砂災害が心配されるときどうするかを家族としっかり話し合ったりしようと思っています。

★最優秀賞★

大田市立北三瓶小学校 6年 飯田 優斗(いいた ゆうと)さん

【講評】

土砂災害から身を守るための四つの要素である「地形の把握」、「避難場所の確認」、「避難経路の確認」、「避難に必要なものを揃えること」の大切さが読み手に伝わる内容となっている。

家族としっかり話し合おうと思うとの決意も書かれており、大人になっても関心を持つ続け、次の世代に引き継いでもらえるよう期待します。